



根原県有地の草原性植生保全

かつて、人の生活に茅が使用されていた時代には、富士山麓の広大な面積が草原として管理されていましたが、資源利用の変化や離農によって徐々に人の手が入らなくなり、草原から森林に変化する所が増加して、草原環境の希少性が増してきています。

蝶類や鳥類の愛好家の方から、草原が減少することに伴い、姿を見る機会が減少したり、見られなくなる種がいるという話を聞くと、多様な生物が生きていける環境を残さなければ、ということと、残すことの難しさを感じます。

今年度は、過去の調査の実績を参考に、6月に、地上20cm程度を残して草を刈る区域を作りました。数を調べておらず目視した限りではありませんが、夏から秋に花を咲かせる植物が多く見られたような気がしました。来年度以降も、一律同じ刈り方をするのではなく、場所によって草の刈り方に変化を付けて、どのような結果になるかを見ていきたいと思っています。

近年、根原県有地では、常葉大学社会環境学部のゼミ合同実習を受け入れて、大学生の皆様が草刈り等をしていただいております。令和5年度は、自然保護課主催の、ボランティアに現地で草刈り等の体験していただく



講師から参加者への草原環境の説明



大鎌を使った草刈り

富士山草原性植生保全活動体験と、ゼミ合同実習を合わせて開催しました。

富士山自然の森づくりの皆様には、草刈りと外来種のキクイモ除去の作業指導をしていただきました。セミナーでは社会環境学部の浅見教授、浅見教授の研究室OBでしずおかF・N・植生研究会の増田氏、浅見教授の研究室の学生の皆さんを講師に、植物の調査や観察を行いました。

草を刈って心地良い汗を流し、根原の地形の特色や草原の植生について学び、掘り返したキクイモを希望者は有効活用して、得るものが多かった1日になったのではないかと思います。

今後も、ボランティアを募集して草原の植生保全について体験しながら知っていただく機会を設けるので、募集を目にした方は是非御参加ください。

MN × REPORT



富士山みがきあげ作戦

富士山みがきあげ作戦とは、富士山のすそ野の4市1町(富士宮市、富士市、御殿場市、裾野市、小山町)内の富士山五合目以下の道路等で、皆様が自主的に実施する清掃活動に対して、ふじさんネットワークが申請を受けて認定する活動です。



公益財団法人富士社会教育センター提供

富士山を眺めることのできる地域のビューポイントや道路等も対象としております。ふじさんネットワーク会員であることの有無は問わず、どなたでも申請していただけて結構です。

認定された活動は、ふじさんネットワークで参加者の傷害保険に加入します。また、

希望があれば「活動資材(腕章、のぼり旗)」を貸与します。

令和5年度は、6団体、178人に参加していただいております。キンデイスティラリー株式会社様や森永乳業株式会社富士工場様の企業や、公益財団法人富士社会教育センター様が年に数回程度実施しており、富士山麓の環境美化に取り組んでいただいております。

各団体の活動の様子は、ふじさんネットワークのホームページなどに掲載させていただきます。是非御覧ください。また、皆様の御参加もお待ちしております。



森永乳業株式会社 富士工場提供